

学習指導案（国語科・現代の国語）

- 1 対象 第1学年4組
- 2 日時 2022年6月8日（水）2限
- 3 場所 (1-4)
- 4 単元名 評論Ⅰ 「言葉の力」大岡信 『探求 現代の国語』桐原書店）p34～43
- 5 単元について

(1) 単元の目標

◎文章の構成や論の展開に注意しながら、評論分の内容を的確に捉えるとともに、日本の文化や言葉について自分の考えを深める。

- ・評論の基本的な読み方を習得する。
- ・具体例を丁寧に読み取りながら論理の展開を把握し、筆者の主張を的確に捉える。
- ・普段何気なく使っている言葉の動きに改めて目を向け、自らの言語生活を見つめ直す。
- ・本文の読み取りをもとに、自分にとって「ささやかだが心に沁みた言葉」について、文章にまとめる。

(2) 教材観

「言葉」という身近なテーマが主題となって論が展開される。これから『現代の国語』で学習するにおいて、評論の入門として適切な教材である。また、評論の基本的な読解法だけでなく、読み取った内容や「言葉の力」を自らの生活に落とし込んで考えることを目標とするため、評論文への苦手意識をあまり与えず、親しみやすいものとして学習のスタートをきることが出来るのではないかと考えられる。一方、言語文化（古典）では「梓弓」を学習することもあり、贈り物としての「言葉」のはたらきとして平安時代の貴族文化の歌が挙げられている点は共通している。「言葉の力」はどこにあるのかという根本に迫り、そこから自らの内なる言葉を発見し、考えを深められる良いきっかけとなるだろう。

(3) 生徒観

生徒は、授業に対し真面目に取り組む姿勢をもっている。入学してから1～2ヶ月ということもあり、積極的に発言をする生徒はあまりいない。国語・読書に関するアンケートでは、授業内で身につけた力として、「語彙力・読解力」を挙げている生徒が多かった。読書に関する意見文では、論理的に自分の考えを述べられている生徒とそうでない生徒の差が大きく感じられた。知識不足や因果関係の解離、質問の意図が掴めていない、口語と文語の使い分けが不明瞭など、課題は山積みである。授業を通して、論理的思考を身につけ、生活する上で活かせるよう、言葉に注意を促しつつ、読解力を培っていきたい。教室の構造的にグループワークは難しそうなので、ペアワークを取り入れ、教員・生徒間コミュニケーションを図っていききたい。

(4) 指導観

評論は苦手意識を持ちやすい分野である。本教材は「言葉」という身近なテーマをもとに「中原中也」、

「氷山の一角」「志村ふくみさん」の桜の例をとって、重層的に論が展開されている。筆者の伝えたいことは【序論】にてほぼ述べられており、捉えやすいが、中原中也の例など、序論・本論にて一度読んだだけでは理解しにくい部分が多数見受けられる。評論入門ということで、なるべく親しみやすいように、自らの生活に落とし込んで考えたり、図式化することによって整理する方法を提示し、理解や興味・関心を促したい。

6 単元の評価規準

A 知識及び技能	思考力・判断力・表現力等			E 学びに向かう人 間性
	B 聞くこと・ 話すこと	C 書くこと	D 読むこと	
<p>①言葉には認識や思考を支える働きがあることを理解している。(1)ア)</p> <p>→具体的なエピソードと筆者の主張の関係について理解している。</p> <p>②常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使用している。</p> <p>(1)ウ)</p> <p>③実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増やすとともに、語句や語彙の構造、特色、用法及び表記の仕方などを理解し、話や文章の中でつくことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。</p> <p>→全文を正しく音読している。</p> <p>→「出来合いの大きな表現と正反対の方向」</p> <p>「問題は紛糾していない。野望が紛糾しているだけだ」「言葉は氷山の一角」などの特徴的な表現を正確に理解してい</p>		<p>①読み手の理解を得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度などを考えて、文章の構成や展開を工夫している。(1)イ)</p> <p>②自分の考えや事柄が明確に伝わるよう、根拠の示し方や説明の仕方を考えるとともに、文章の種類や、文体などの表現の仕方を工夫している。(1)ウ)</p> <p>→本文の読み取りを元に、自分にとっての「ささやかだが心に染みた言葉」について、構成や表現を工夫しながら400字程度の文章にまとめることができる。</p>	<p>①中原中也の例を通して筆者が言おうとしていることを理解している。</p> <p>②平安時代には、なぜ言葉が贈り物になり得たのか理解している。</p> <p>③「志村さん」の例を通して、人間全体が言葉の一つ一つに反映するという筆者の考えを理解している。</p> <p>④「言葉の力」についての筆者の考えをまとめ、主題を理解している。</p>	<p>①本文中の難解な語句や表現を、国語辞典などを用いて調べる。</p> <p>②「言葉の力」というタイトルについて考えることから、教材への内容への関心を高めている。</p> <p>③ささやかな言葉の偉大な力についての筆者の考えを参考にして、自分の考えをまとめている。</p> <p>④「言葉を贈り物にする」という発想について自分の考えをまとめる中で、自らの言語生活を見つめ直している。</p> <p>⑤「言葉」や「コミュニケーション」の問題について論じた評論を読むなどして、考察を深めている。</p>

<p>る。 →「そういうこと」「こう いうこと」などの指示表 現を正確に理解してい る。</p>				
--	--	--	--	--

7 単元の計画 (総時間 5時間) (単元の目標を達成するために指導計画を示す。)

次	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準
一	1	<p>◎評論とは何か／構成と内容理 解 (ワークシート) ☆第一段落【p 34 L1～p 36 L3(①～⑥)】の読解 (ワークシ ート) ◎中原中也の例を通して、筆者 が言おうとしていることを考え よう!</p>	<p>・「序論」「本論」「結論」か らなることを説明する。 ・①そのもの(人)自身が発 揮する力、②他に作用する 力、があることに着目し、授 業を通じて本文はどちらの 力について述べているか考 察させる。 ・評論文の形式を意識して 皆読する。 ・分からない漢字には読み 仮名を振るよう指示。 ・通読後、段落や漢字の読み などを確認。</p>	<p>・「言葉の力」というタイトルに ついて考えることから、教材へ の内容への関心を高めている。 (学 E②) ・本文中の難解な語句や表現を 国語辞典などを用いて調べる。 (学 E①) ・中原中也の例を通して筆者が 言おうとしていることを理解し ている。(読 D①) ・「出来合いの大きな表現と正 反対の方向」「問題は紛糾してい ない。野望が紛糾しているだけ だ」などの特徴的な表現を理解 している。(知 A③)</p>
二	2	<p>☆第二段落【p 36 L4～p 38 L1 (⑦～⑩)】(ワークシート) ◎なぜ言葉は時に最高の贈り物 になり得たのか考えよう。／言 葉の「偉大な力」とはどのよう なものか考えよう。</p>	<p>※本時案参照のこと。</p>	<p>・全文を正しく音読してい る。(知 A②) ・言葉を贈り物にする」とい う発想について自分の考え をまとめる中で、自らの言語 生活を見つめ直している。 (学 E④) ・平安時代には、なぜ言葉が 贈り物になり得たのか理解 している。(読 D②)</p>
	3	<p>第三段落【p 38 L2～p 39 L11 (⑫～⑯)】(ワークシート) ◎「言葉を大切に使う」とはど ういうことか読み取ろう。／「言葉</p>		<p>・全文を正しく音読してい る。(知 A③) ・指示語を的確に理解してい る。(知 A③)</p>

	<p>は氷山の一角」とはどういうことか考えよう。</p> <p>4 第三段落後半～最終段落【p39 L12～最終(16～20)】(ワークシート)</p> <p>◎「言葉というものの本質」を理解しよう。／自然と言葉の関係を読み取ろう。／人間全体が言葉の一つ一つに反映するという筆者の考えを理解しよう。(グループワーク)</p>		<p>・「言葉は氷山の一角」などの特徴的な表現を正確に理解している。(知A③)</p> <p>・全文を正しく音読している。(知A③)</p> <p>・指示語を的確に理解している。(知A③)</p> <p>・「志村さん」の例を通して、人間全体が言葉の一つ一つに反映するという筆者の考えを理解している。(読D③)</p>
三	<p>5 ◎自分にとっての「ささやかだが心に沁みだ言葉」について、理由も含めて400字程度で書いて発表しよう!</p> <p>・個人→グループで発表</p>	<p>・論理の展開を工夫する。</p> <p>・教員による例示を行う。</p>	<p>①読み手の理解を得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度などを考えて、文章の構成や展開を工夫している。(1)イ)</p> <p>②自分の考えや事柄が明確に伝わるよう、根拠の示し方や説明の仕方を考えるとともに、文章の種類や、文体などの表現の仕方を工夫している。(1)ウ)</p> <p>→本文の読み取りを元に、自分にとっての「ささやかだが心に沁みだ言葉」について、構成や表現を工夫しながら400字程度の文章にまとめることができる。(書C)</p> <p>・「言葉を贈り物にする」という発想について自分の考えをまとめる中で、自らの言語生活を見つめ直している。(学E④)</p>

8 本事案（第2次 第3時）

(1) 本時の目標

- ・「言葉を大切にする」とはどういうことか読み取ろう。
- ・「言葉は氷山の一角」とはどういうことか、図式化して考えよう。

本時の展開

時間	学習活動	指導上の留意点	評価規準
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> ・前回の復習（第二段落について、教員による要約） ・ワークシート配布 ・本日の目標と流れについて説明。 <p>◎「言葉を大切にする」とはどういうことか読み取ろう。 ／「言葉は氷山の一角」とはどういうことか考えよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えた答えを消さないこと。模範解答は色ペンで写す。 <p>※ワークシート（本日の目標参照）</p>	
展開 40分	<p>第三段落【p 38 L2～p 39 L11 (12～16)】（ワークシート）</p> <p>指示教科書 p 38 開く。 （38 頁二行目～見ていく）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・形式段落の番号を振る→全体で確認 <p>範読 (12～14)</p> <p>Q1 筆者・多くの人の「言葉に対する認識」はどのようなものだったか？ （個人ワーク→ペアで確認→それぞれ二名指摘）</p> <p>指示ワークシートを見る</p>	<p>☆鉛筆を持つ。指示語に注意しつつ、言葉の認識について多くの人の意見と筆者の考えにアンダーラインを引くよう指示。</p>	
		板書ワークシート (123)	

	<p>→ワークシートの①②③を穴埋めするよう指示。 →教員による説明。</p> <p>範読 (⑬段落) (もう一度)</p> <p>Q2「そういうこと」とはどういうことを指すのか？ (ペアワーク→⑭文章にする)</p> <p>・ここでの「野望が紛糾している」とはどういうことか？ (説明)</p> <p>音読 (⑭段落)</p> <p>指示 ワークシートを見る 指摘 (④⑤⑥穴埋め)</p> <p>範読 (⑮⑯段落)</p> <p>Q⑮(「言葉は氷山の一角」)を図式化して整理しよう！ (個人ワーク→ペアワーク)</p>	<p>・⑦どこかにあるに波線を引く。</p> <p>・第一段落の内容を参照しつつ、ここではどういう意味を持つか考えさせる。(第一段落の内容の確認。〈伝えたい内容は紛糾していないが、方法(気持ち)は紛糾している〉)</p> <p>※ワークシート④⑤⑥に何が入るか考えながら聞くよう指示。</p> <p>板書ワークシート④⑤⑥</p> <p>→接続詞「つまり」(教科書に印を付ける ※①図式化する上でキーワードになりそうなところにアンダーラインを引く。(⑮) ②Qに対するAにアンダーラインを引く。(⑯) ※絵の上手い下手は問わない。あくまで本文の内容を整理するための活動であることを伝える。</p>	<p>・全文を正しく音読している。(知A③)</p> <p>・「言葉は氷山の一角」などの特徴的な表現を正確に理解している。(知A③)</p>
--	--	---	--

	<p>→該当箇所を指摘</p> <p>→教員による説明。(板書)</p> <p>・氷山の下の側のおもしろさとは何を示すか？</p> <p>ワーク色塗り (2色)</p> <p>(⑩段落 (音読)、Aの確認)</p>	<p>・机間巡視。</p> <p>※模範解答と違って書いても消さない。少し違う場合は赤ペンで修正するなどして、自分の考えを残す。綺麗に書きたい場合はワークシートの空いている部分に板書を写すよう指示。</p> <p>・「氷山の下の側の部分のおもしろさが感じ取れない」について補足説明。</p> <p>※板書参照。</p>	
<p>まとめ 5分</p>	<p>◎本日の内容まとめ</p> <p>→次回予告</p> <p>(・感想プリント記入→回収)</p>		

9 板所計画

日常の言葉
ありふれた言葉

海面

言葉が発した
人の心
(深部)

◎「氷山の一角」を図式化してみよう！

- ・語彙が貧弱だと詩が書けないということ
- Q「そういうこと」とは？

突然⑤(すごい力)を持った言葉に変貌

④(組み合わせ)方々、時と場合によって、

③(ありふれた)言葉が、

②(当たり前)の②(日常)の言葉

Q1筆者の考える「言葉」の認識

10 準備物

- ・ワークシート (40名分)
- ・色ペン (2色)

《本日の目標》

- ①「言葉を大切にすること」とはどういうことか。筆者の考えを読み取ろう。
- ②「言葉は氷山の一角」とはどういうことか、図式化して考えてみよう。

③ 38頁2行～40頁2行(②～④)

Q-1「言葉を大切にすること」とはどのようなことか、整理してみよう。

【多くの人】

万人がいつせいに認めるような、誰が見てもすばらしい、

特別な言葉がどこかにあるという認識。



《言葉に対する認識》

【筆者の考え】

大事なすばらしい言葉というものは、その辺に転がっている

①□□□□の②□□□□の言葉だという考え。

↓そのことに気がついてくると、私たちの口をついて出てくる

③□□□□□□□□が、しんからわかってくる。



④□□□□□□□□言葉が⑤□□□□□□□□方や、時と場合によって、

突然⑥□□□□□□□□を持った言葉に変貌する

揮するところに、実は言葉の昔も今も変わらない偉大な力があるのだった。

今、言葉を大切にしようとする多くの人が言う。言葉を愛しましょう、言葉を守りまじょう、と多くの人が言う。その場合、根本の問題は、その大事なすばらしい言葉というものは、実はその辺にござるござる転がっている当たり前前日常の言葉なんだということに対する徹した認識があるかないかということだろう。その辺に転がっている言葉以外に、すばらしい言葉なるものはないんだということに気がついてくると、私たちの口をついて出てくる一語一語の大切さが、しんからわかってくるということにもなる。どこか別の場所に、万人がいつせいに認めるような、誰が見てもすばらしいという特別な言葉があって、それをあがめ奉っているのが言葉を愛することであり、言葉を大事にすることであるならば、こんな簡単な話はない。

よく、「詩を書くか」と思っても、語彙が貧弱で……。」と言う人がいる。私は常々そういうことがあるものかどうか疑わしく思っている。自分以外のどこかに「語彙」の宝庫があるかのように聞こえるからだ。問題は紛糾していないのに野望が紛糾している一例ではないかと思う。

日常用いているありふれた言葉が、その組み合わせ方や、発せられる時と場合によって、突然すごい力を持った言葉に変貌する。そこにこそ、「言葉の力」の変幻ただなら

ぬ現れがあり、そこにこそ言葉というものをを用いることの不思議さ、恐ろしささえあるということだ。なぜそういうことが生じるのだろうか。結局のところ、事柄は次の一点に帰着するだろう。

つまり、我々が使っている言葉は氷山の一角だということである。氷山の海面下に沈んでいる部分は何か。それは、その言葉を発した人の心にほかならず、またその心が、同じく言葉の海面下の部分で伝わり合う他人の心にほかならない。私たちが用いている言葉は、そういう深部をほんのちよっぴりのぞかせる窓のようなものであって、私たちはそれをのぞき込みながら相手の奥まで理解しようと絶えず努めているのである。現代の作品を読む場合でも、自分が非常に感動したある作品を、他人が、何だこれは、つまらない、と言いつけるのは、その人には、たまたま言葉の氷山の側面部分のおもしろさが感じ取れないからである。

美しい言葉とか正しい言葉とかいわれるが、単独に取り出して美しい言葉とか正しい言葉とかいうものほどにもやはりはない。それは、言葉というものの本質が、口先だけのもの、語彙だけのものではなくて、それを発している人間全体の世界をいやおうなしに背負ってしまふところにあるからである。人間全体が、ささやかな言葉の一つ一つに反映してしまうからである。そのことに関連して、これは実は人間世界だけのことで

はなく、自然界の現象にそういうことがあるのではないか、ということについて語っておきたい。

語彙 変貌 変幻 帰着

努める

* 徹した

* 口をついて出る

* しんから

* あがめ奉る

* 氷山の一角

* いやおうなしに

◆「そつじつ」と「は、何を指しているか。